

2. 寄稿：ミナト横浜と私

みなと横浜改造市民会議理事長 田中修

「都市」というのは夜間住んでいる人口より昼間の人口の方が多いところと定義できます。都市と
りわけ大都市は昼間、周辺から人が業務、学校、文化娯楽などを目的に集まるからです。日本
一人口の多い市としての「横浜市」はこの定義に合いません。昼間人口が夜間人口より少ないの
です。昼間人口 349 万人、夜間人口 377
万人です（2022 年現在）。その理由は
東京に近接しているからです。

そこでなんとか大都市らしく市内で働
いたり学んだりして昼間人口を増やそ
うと計画しました。その核となったの
が「みなとみらい 21 事業」です。計画
当初の 1970 年代から 80 年代の頃、昼夜
間人口の差は 19 万人でした。そこで、
当時の伊勢佐木町関内地区と横浜駅周
辺地区の間にあった三菱重工横浜造船
所の郊外移転に伴って生まれた土地と
海面を利用して 19 万人が働いたり学ん
だりする場を生み出す計画が生まれま
した。

伊勢佐木関内地区と横浜駅周辺に分か
れていた都心機能を一体化し、首都機
能を横浜に集積することも目的でし
た。186ha の海面を埋め立てる「みなと
みらい 21 事業」が着工したのは 1981 年
で、爾来、夢と希望にあふれた未来都
市を白紙に描くような高揚感に満ちた
雰囲気の中で大勢の関係者、先人た
ちが都市づくりに携わってきました。私
も直接間接にみなとみらい事業のいく
つかの段階で関係しました。

そして、時代も移り変わり平成 23 年
（2011 年）にこの大事業が完了したの
です。現在、みなとみらい地区には
1900 を超える事業所が立地していま
す。この中には多くの大企業、優良企
業の本社や開発部門などの機能が集積



図3 埋立法線図

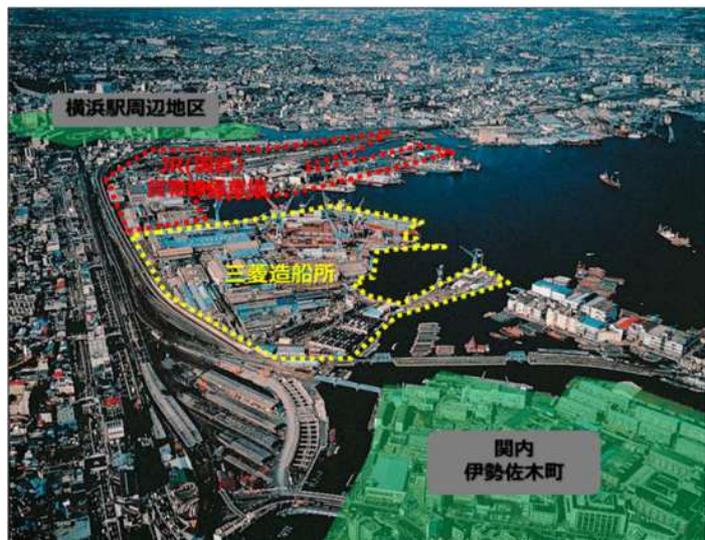


写真1 みなとみらい21事業着工前(1980年)



2023年10月撮影

しました。横浜は昔から東京に近接しているため支店経済が多く、本社や開発部門などの中枢管理機能が不足していました。このため、他の大都市に比べ法人税収が少なく、圧倒的に個人住民税に依存していました。しかし、現在、このみなとみらい地区だけで 210 億円の税収があります。

このように、経済や都市づくりといった観点からだけでなく、私が誇りに感じているのは「景観」です。近代的な超高層ビルが立ち並ぶ景観は意図したものでしたが、その美しさです。これは横浜が昔から（昭和 40 年代から）アーバンデザインを進めるための様々な取り組みをしてきた成果です。とりわけ、みなとみらいの夜景の美しさはぜひ訪問して御覧いただきたいと思います。

さて、みなとみらいだけではありません、横浜は開港都市としての歴史から、多くの魅力的な地区や建物などを有し、多くの人々が訪れる観光都市でもあります。最近気になることがあります。それは訪日外国人の訪問が少ないことです。その理由は以前からわかっていたことですが鎌倉や箱根など県内の観光名所があることや、観光のために必要な宿泊機能が不足しているなどが原因で横浜を素通りして行くためです。

訪日外国人観光客は最近ツアーで来るより個人的に、目的を単に観光にとどまらず、日本の伝統や文化をより深く体験したりする傾向が強まっているとも聞きます。質的に高まってきたと考えられます。欧米系とアジア地区あるいは他の地域とでは目的に違いがあるかもしれませんが、市民としても対応力を高める必要があると思います。

それでも横浜には人々を引き付けるものがたくさんあります。特に、若者たちが訪れてくれます。アリーナやイベント会場などが次々に建設され、大規模コンサートなどで横浜に来て楽しんでくれる機会が増えています。若者たちが楽しむ姿を見ることは街の未来に希望と安心を与えます。「若者たちが来てくれる町横浜」をもっとセールスポイントにしてシティセールスをしたらどうでしょうか。

私は住まいの近くで、体が隠れそうなくらいのランドセルを背負って、友達同士で手をつないで登校したり、母親がヨチヨチ歩きの子供に手をかしたりする光景を目にする度に、例えようもない幸せを感じてしまいます。子供たちがなんの不安もなく日常の場で過ごせる横浜、そして日本という国に感謝の気持ちが湧いてきます。メディアを通して毎日見る戦争や紛争地域の子供たちの悲惨な報道にいつも心を痛めますが、この彼我の差の現実は重く受け止めることだと考えます。

私が活動の場に行っています「みなと横浜改造市民会議」は私のように第一線を退いた人たちが横浜をもっと住みよい街にするために、経験や知識を生かした活動を続けてきました。ささやかな社会活動ですがすこしでも横浜を元気で魅力あふれる街にする努力しています。一人でも仲間を増やし、活動の場を広げていきたいと考えます。

注：文中の図 3、写真 1 は、「横浜みなとみらい 21 事業～半世紀にわたる都市更新の軌跡と未来～2023/09/22 建設コンサルタント協会」https://www.jcca.or.jp/infra70n/files/PJNO_43.pdf 掲載資料より転載（原点：いずれも横浜市資料）